

21

アイシーティー さいがい ぎ じ たいけん
ICTで災害を疑似体験しよう

徳島大学理工学部情報光システムコース 光原 弘幸

1. ねらい

世界中で多くの災害が発生しています。徳島県では近い将来、南海トラフ巨大地震が発生するといわれています。AR(オーグメンティッドリアリティ)やVR(バーチャルリアリティ)、HMD(ヘッドマウントディスプレイ)といったICT(情報通信技術)の力を借りて災害を疑似体験し、災害や防災のことを考えるきっかけにしましょう。

2. 用意するもの

HMDなどの機器は用意します。動きやすい服装と靴で来てください。

3. やりかた

(1) ARで災害を疑似体験する

HMDかタブレットを通して教室を見てください。教室内の災害の様子(コンピュータグラフィックス)が見えるはずですが、危険を避けながら歩いて、スタートからゴールに向かってください。

(2) VRで災害を疑似体験する

HMDかディスプレイを通して災害に襲われた架空の世界へ入り込んでみましょう。コントローラーを操作して、その世界の中を動いてみることもできます。

4. わかること

疑似体験を通じて災害の恐ろしさを感じるとともに、正しい対処法を学ぶこともできます。

5. 注意事項

HMDは斜視や視力低下につながる可能性が指摘されていることから、13歳未満のお子様にはHMDではなくタブレットまたはディスプレイによる疑似体験をお勧めします。

6. その他(体験時間、その他参考事項)

体験時間は一人5分程度です。

AR=実際の世界+架空の世界

